資料２

校地選定に関する意見交換のまとめ

校地検討会議

１　校地・校舎に係る環境

検討項目	検討の観点	校地検討会議での主な意見
敷地（校地）の広さ	○３科それぞれの学びを保障できる広さが確保できるか ○３科連携の学びが実現可能となる施設（実習地、実習施設）の整備ができるか	・ゆとりある教育環境を考えると、敷地面積は広い方が適切だと考えられる。 ・農業実習が可能なところを優先したい。 ・総合技術高校として、実習施設・実習地が十分確保できる校地が望ましい。 ・農業実習地は、土壌づくりの面からも継続使用が望ましい。
部活動の活動場所の確保	○部活動の活動場所が十分確保できるか	・部活動の活動場所として広いグラウンド、体育館を用意できるところが適切と考える。 ・現在の統合対象校にある農業科、工業科、商業科それぞれの特色ある部活動は継続したい。
駐車場施設の確保	○地域・企業からの来校者、行事等の際の保護者の駐車場は十分に確保できるか	・上伊那農業高校及び駒ケ根工業高校（以下、「両校」という。）とも十分確保できると考えられる。面積等については校舎設計段階で見直すことも大切だと考える。
周辺の道路環境	○大型バスや訪問者が訪れやすい道路環境があるか	・両校とも、高速道路の IC、スマート IC からのアクセスは、好条件であり、どちらも十分な環境と考えられる。
近隣住民への影響	○学校での活動による騒音等の影響はどうか	・長年にわたり地域に密着し、関係性があるため、特に心配はないのではないかと考えられる。

２　通学環境

検討項目	検討の観点	校地検討会議での主な意見
駅からの距離	○最寄り駅からのアクセスが容易か	・駅から近いことは重要であり、アンケート結果（令和４年 10 月実施）からも要望が強い事項である。 ・両校とも多くの生徒が駅から徒歩で登校しており、駅からのアクセスは両校とも容易と考えられる。
通学時の安全性	○徒歩・自転車による通学の安全性が確保されているか	・駅から学校までほぼ歩道が整備されており、両校とも適切と考える。 ・通学環境については、地域の協力のもと、新校開校にあたり更に安全確保に向け整備されたい。
上伊那全域からの通学のしやすさ	○各地からの通学時間はどうか	・南北に長い上伊那地域を考慮し、できるだけ中心にあり、上伊那の各地域から通学時間に大きな差が生じないところがよいと考える。 ・公共交通は、今後も整備が必要と考える。

資料２

３　学校を取りまく教育環境

検討項目	検討の観点	校地検討会議での主な意見
他の学校等（幼保小中高大特支）との交流の利便性	○交流が想定される他の学校等との距離や位置関係はどうか	・交流のしやすさは単に距離や位置など物理的なものだけでなく、協力体制など地域のサポートが重要であると考える。
地域（企業・自治体・教育機関等）との連携の利便性	○交流や連携が想定される地域の企業・自治体・教育機関との距離や位置関係はどうか	
周辺の学習環境（自学、自習スペース）	○近隣に放課後の学習環境等があるか	・図書館や居場所（自習等のスペース）となる公共スペースが近隣にあるところがよいと考える。 ・伊那市内、駒ケ根市内に近ければ、学習環境は整っていると考えられる。
近隣施設の利便性	○生徒の発表等で活用が想定される公共施設等との距離や位置関係はどうか	・学校からは若干距離があっても直接集合が可能な施設があればよいと考えられる。

４　その他

検討項目	検討の観点	校地検討会議での主な意見
地区内の高校配置のバランス	○再編後の上伊那県立高校６校の配置はどうか	・生徒たちの学びのしやすさ・通学のしやすさを実現できるところがよいと考える。 ・再編・整備計画が「都市部存立校」と「中山間地存立校」を基本に再編を進めている以上、地区内のバランスの視点は必要と考えられる。
他地区（旧他通学区）との高校配置のバランス	○諏訪地区、下伊那地区、木曽地区、塩筑地区の専門学科設置校との距離はどうか	・諏訪地域、下伊那地域の農業、工業、商業の学びを備えた学校からの距離、バランスを考慮したところがよいと考える。
まちづくりとの関連	○自治体が計画するまちづくりのゾーニングや土地利用規制はどうか	・両校とも、現在、学校が立地している場所であるため、特に問題はないと考えられる。